

銀漢亭日録

伊藤伊那男



9月14日(水)▼九時半、亀有駅、伊那北会。歩いて青戸にある葛西

城跡。中川の洲の浮城で、環七の工事中に見えられたもの。高砂橋を渡り、柴又。矢切の渡しを越えて国府台合戦の地。また里見公園になっている国府台城跡を巡り、弘法寺、真間の手児奈の故事を巡って終了。市川の「朝日屋」という食堂で乾杯。肴佳。あと昔ながらのカラオケスナック。帰路、新宿思い出横丁に……。

15日(木)▼昼、神保町の郵便局にて「銀漢」の資金移動。十三時、発行所にて柴山つぐ子句集の校正、構成についての打合せ。武田禪次、花果、我部敬子さんと。十四時近くまで。伊那で入手の茸(じこほう)と里芋炊き合せ。茗荷の卵とじなど。明日の俳句講話のまとめ。

16日(金)▼調布市の俳句講座、十四時から十六時。杉田久女。今日で五回目。聴講生三十人くらいに増えていると。宝田氏より来年も継続の要請あり。竹内洋平夫妻などと小酌。あと居酒屋を梯子。帰宅して孫用にビーフシチューを仕込む(昨日、すね肉を買ってある)。

17日(土)▼「大倉句会」「十六夜句会」合同吟行会で、十三時、青物横丁駅集合。十四名。山内容堂の墓。立会川の龍馬像、鈴ヶ森など、旧東海道に沿って大森海岸まで。品川に戻って居酒屋にて五句出し句会と親睦会。あともう一軒。

18日(日)▼ほぼ終日雨。大型台風接近中。明日の「夕焼け酒場」の買物と一部仕込み。柴山つぐ子句集の序文三千字位の荒書きをする。

29日(木)▼十三時より、田町の専売ホールにて「三田俳句会」。出席三十七人。欠席投句四十二人。終了後、行方、禪次氏ほかと「駒八」で酒盛り。

30日(金)▼「あ・ん・ど・うクリニック」。俳人協会岡山支部へ講演会のレジメを送る。「三丁目の夕日」十二月号へエッセイ。「ここ滋賀」句会のミニ講話の資料作成。ベビィ帆立と生姜を煮る。

10月1日(土)▼新年号用エッセイ一本。十一時より上野「東天紅」にて佐怒賀正美主宰「秋」六十周年記念祝賀会。あと寺澤和雄・太田うさぎさんと上野「英館」で昼酒。行きも帰りもうたた寝で乗り越し。

2日(日)▼十五時から日本橋の「ここ滋賀」にて「俳句てふてふ」の句会、十一人。あと有志で一献。

3日(月)▼富士急ハイランドバス停に昼着。高部務氏の迎えを受ける。「彩花」という吉田うどんの店で昼食。沿道で雑草数種入手。高部山荘に入る。夜、茸のすき焼きで歓談。第六四回「奥の細道 羽黒山全国俳句大会」の選句(応募六五十句ほど)。

4日(火)▼山の空気が爽快。高部氏はゴルフ。私はウッドデッキで羽黒山俳句大会子供部(応募千七百句弱)の選句など。唐松が散る。調布の講座の水原秋桜子について調べに入る。夜、富士急ハイランドホテルで和食。戻って歓談。二十二時、別棟へ戻る。

5日(水)▼八時近くまでゆっくり眠る。ウッドデッキで朝食。十時過ぎ、忍野八海へ送ってもらい別れる。雨となる。一時間ばかり散策してバスで富士山駅に出て、今回は高速バスに乗って新宿へ戻る。「思い出横丁」で一人の打上げ。

19日(月)▼十四時から、谷中「夕焼け酒場」にて「銀漢亭の日・鮎祭」、十七名か。事前出句三句の句会。清人さんと調整。十九時半位までか? 記憶不確か。酩酊。

20日(火)▼二日酔い。終日台風の余波。「俳句てふてふ」へ「俳人の風景」三枚送る。

22日(木)▼「銀漢」十一月号の選句続く。久々、祖師ヶ谷大蔵駅前の海苔の「高橋茶舗」。何軒かに送る。自宅用も。伶ちゃんコンサートで京都。夕食は孫二人にてステーキとサラダ用意。

23日(金)▼午後、手がすいたので新宿の書店。あと、「思い出横丁」の鰻の串焼きの「カブト」、あと、餃子屋、あと寿司屋と梯子。ちよつと飲み過ぎたか……。

25日(日)▼午前十時二十五分、本駒込の「東洋文庫ミュージアム」。「十六夜句会」の面々。桂説子さんのつてで、専務理事の杉浦康之氏から、東洋文庫の歴史や収蔵品、今回の展示内容など一時間ほど講義を受ける。あと見学。昼は文庫内のレストランでバスタ。あと久々、六義園。「江戸川橋地蔵通り商店街」を散策。「陀羅尼助丸」入手。中華店で歓談。あともう一軒。

27日(火)▼今日も快晴。ここ四、五日は選句続き、星雲集は大溝さん、銀河・綺羅星集は花果さん、直さんに分けて送る。午後、選後評書く。十七時、谷中の「スナック雪月花」。小石さんがママさんの日で、その誕生祝をするというので、井蛙、文子、ルビちゃんなど集まる。昼間連絡を取り合っていた読売新聞の歌壇俳壇欄担当記者・松本由佳さんともここで落ち合い、「俳句あれこれ」四回執筆の依頼を受ける。

28日(水)▼終日、机に張り付く。「群星集」の選句、選評を書いて、十一月号の執筆を終える。と、大溝さんから十二月号の投句届

6日(木)▼羽黒山に選句稿FAX。「銀漢」十一月号の校正作業。数句会の選句。終日家。夜、旅で入手のほうとう鍋。南瓜、じゃが芋などふんだんに。孫に好評。

7日(金)▼十時半、前橋駅集合。伊那北会。前橋城跡へ。といつても群馬県庁などの官庁街で僅かに本丸の土塁などを残すのみ。臨江閣、東照宮。群馬県庁の展望ホールから利根川を見る。前橋ハリス正教会、酒井家の墓所の龍海院など平日、雨の中を巡る。十五時、酒場が無く、「天然温泉ゆーゆ」という日帰り温泉のレストランに潜り込み打上げ。帰路、大宮で下車し駅前の「いづみや」で飲み直してお開き。新宿でちよつと飲み、また乗越し……。

8日(土)▼「銀漢」十一月号の校正稿を武田編集長に送る。数句会の選句。

9日(日)▼初等部運動会とて、家族出払う。読売新聞の歌壇俳壇のコラム「俳句あれこれ」に一本送る。四回連載。十五時頃、家族戻り、酒盛りとなる。酔って早々に寝る。

10日(月)▼調布の次の講話。水原秋桜子の調査。岡山の講演会の準備。作句。

11日(火)▼快晴。久々、農家の野菜買いに。処理が大変。白菜のつまみ菜は油揚げと炊く。獅子唐はジャコ炒め。インゲン・モロヘイヤは茹でてストック。結局昼まで台所。午後、神保町の郵便局「銀漢」の振込用紙の印刷依頼。喫茶店で作句など。夜、発行所にて「火の会」十一人。あと「魚勝」で小酌。

12日(水)▼読売のコラム、趣旨合わずとて、書き直す。「銀漢」十二月号の自句自解執筆。